

ライフサポート東京の活動について

【会員の動き】(H27.12.10 現在)

正会員 84名 賛助会員 2名

入会者：久保田聡

退会者：向めぐ美、山本博章、塩原匡浩、宇佐神進、三枝久、白井智永、佐藤正将、小島隆志、吉田まさ子、杉本不二男

【受任実績】(H27.12.10 現在)

受任総数 188件 (うち終了51件)

内訳 法定後見 121件 (うち終了42件)

保佐 34件 (うち終了7件)

補助 13件 (うち終了2件)

任意後見 20件 (うち終了1件)

【活動報告・予定】 H27.7.1～

●研修

- ・H27.7.24 (金) 成年後見ガイダンス
／法定後見申立支援に関する実務
- ・H27.8.27 (木) 成年後見人等の職務
- ・H27.9.17 (木) 法人後見に関する合同研修
- ・H27.10.1 (金) ～充実した在宅サポートのために～
「知っていますか?木造住宅の地震保険金請求」
「暮らしやすいパリアフリー住宅について」
- ・H27.10.22 (木) 任意後見契約公正証書作成支援の実務
／任意後見契約発効後の実務
- ・H27.11.6 (金) 今さら聞けない葬儀のイロハ
～後見人として知っておきたいこと～

- ・H27.11.19 (木) 認知症／精神障害・知的障害
- ・H27.12.18 (金) 介護保険制度／法定後見終了
- ・H28.1.29 (金) 内容：未定(現在検討中) ※更新研修
- ・H28.3.25 (金) 内容：未定(現在検討中)

●イベント

- ・H27.10.12 (祝) 第28回しながわ夢さん橋2015
- ・H28.2.14 (日) 品川区消費生活・社会貢献活動展
～ゆたかな暮らし つながる地域2016～

●講師派遣

- ・H27.7.11 (土) 一般社団法人レジリエンス教育研究所
(東京大学共同研究) 主催「市民後見人養成講座
フォローアップ研修」において「任意後見の実務」
- ・H27.9.15 (火)
ハルサ・コミュニティ主催「老後の安心6点セット」
- ・H27.11.7 (土) 一般社団法人レジリエンス教育研究所
(東京大学共同研究) 主催「市民後見人養成講座」に
おいて「後見人の実務」
- ・H28.2.24 (水) 社会福祉法人品川区社会福祉協議会
品川成年後見センター主催「市民後見人養成講座」に
おいて「成年後見制度の基礎」

●渉外活動

- ・H27.11.21 (土)
旭出学園「勤労感謝祭」にボランティア参加
- ・H28.2.19 (金)
多摩中央支部会員有志成年後見研究会との情報交換会

★ お知らせ ★

【その1】 H28.1.1 から、後見事務管理のクラウドシステムの運用が始まります。今後、各案件の個別監査の締りをもって、翌期よりクラウドシステムでの事務日誌・現金出納帳・費用明細書の入力に移行することになります。(移行に該当する担当者の方には、システム説明会へのご案内が事務局から個別に届くことになっています。)

【その2】 ライフサポート東京において、社会貢献基金が開設されました。原資は当法人への寄付金で、資力の無い方でも安心して後見制度を利用できるよう、後見等事務報酬、費用の助成等に活用されます。詳しくは事務局にお問い合わせください。

【その3】 ライフサポート東京内に障がい者支援ワーキンググループが発足されました。今期より障害者支援に力を入れるにあたり、すでに当法人にて障がい者を担当している主な会員が、有益情報や障がい者支援独特の悩み・注意点等を、提供・共有し法人の財産とするとともに、法人の障害者支援の方向性を検討していくことが目的です。もしご自身の担当案件でお悩みの会員がいらっしゃいましたら事務局にお問い合わせください。

ライフサポート東京のキャッチコピー決定！ 「あなたのこれからを いつまでもサポート」

会員の皆様からご応募いただきましたライフサポート東京のキャッチコピー。応募総数58件の中から、金子琢哉会員による「あなたのこれからをいつまでもサポート」に決定いたしました。たくさんのご応募ありがとうございました。(次点：笈川信孝会員「あなたと成年後見をむすぶ架け橋」、刈谷美樹会員「あなたの悩みを半分に。笑顔を二倍にしたい」)

平成28年1月10日発行

発行人 平松 太郎

発行所 特定非営利活動法人ライフサポート東京

〒140-0001

東京都品川区北品川2丁目8番3号

TEL 03-3472-8595 FAX 03-6807-2580

URL <http://lifesupport.admini-s.com>

編集人 ライフサポート東京広報部



Life Support Tokyo News

特定非営利活動法人ライフサポート東京

第13号 平成28年1月10日

～本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます～

障害者支援施設ボランティアレポート

障害者支援施設・旭出生産福祉園と特別支援学校・大泉旭出学園(練馬区)が合同で毎年一回開催する「勤労感謝祭」。働く喜びを感じ、働けることに感謝するこのイベントに、11月21日(土)、ライフサポート東京会員がボランティアスタッフとして参加いたしました。



当日は、模擬店のお手伝い、児童・生徒・利用者の方々への支援などを主におこないました。以下は、ボランティアに参加した会員の感想です。(五十音順)

■特別支援学校への訪問は初めてで、生徒さんや保護者の方と少しでも交流出来たことは貴重な体験となり、活字からの情報だけでなく、実際に触れ合うことは大事であると感じました。個人的にも、生徒さんの素敵な作品を購入することができ、楽しませていただきました。

片付け後に、学園関係者の方やボランティアの学生さんたちと感想を述べる場で、ライフサポート東京の活動内容などを紹介出来る機会もあったので、今後も今回の様な活動は継続する意義は十分にあるのではないかと思います。(佐々木加奈子会員)

■生徒さんたちがみんな笑顔で本当に楽しそうで、このイベントを心待ちにしていたことがよくわかりました。これだけの催しを学校関係者や保護者だけで行うことは難しいことだと思いますが、今回ボランティアとして係わることで、皆さんの笑顔のお手伝いできて私自身も嬉しかったです。

また、保護者や先生方とお話しすることで、まわりの方々のお気持ちにも接することができ、それらの方々にも寄り添った対応を心掛けなければと、あらためて痛感いたしました。(立山昭浩会員)

■模擬店でおにぎりの販売をお手伝い。商品、釣り銭の受け渡しや声かけについて、「簡潔にわかりやすく」を心がけました。ご家族と生徒さんのやり取りを垣間見て、あたたかな気持ちになるとともに様々に考えを巡らせ、得るところの多いボランティア参加でした。(谷家幸子会員)

■旭出生産福祉園の利用者さんや大泉旭出学園の生徒さん、ご家族や先生方と触れ合うことができ、とても楽しい一日でした。また、一緒にボランティア参加をした会員の方々ともお話しする機会が持てて良かったです。来年以降も是非参加させていただきたいと思ひます。(西口由季会員)

■旭出学園はとてもオープンで、生徒の皆さんがとても穏やかで和やかな雰囲気がとても印象的でした。私はバザー会場で物品販売を担当しましたが、様々な大学からのボランティアの方と交流ができたのもとても良かったです。

今後は旭出学園の生徒の皆さんと、より直接に交流できる機会があれば良いなと思ひました。(吉信真理子会員)



教育過程(中学部・高等部・専攻科)ごとにお神輿を作成、当日そのお披露目がおこなわれました。

任意後見に関するアンケートをおこないました

ライフサポート東京広報部

ライフサポート東京は、いま、「精神障害の方々の支援」と「任意後見」を課題としています。前号では「精神障害の方々の支援」を取り上げましたが、今号では「任意後見」を取り上げます。

ライフサポート東京では、任意後見の案件がいま約20件あります。平成27年11月現在、任意後見契約が発効された案件はまだありません。法人内のケース会議では現在進行形の案件の業務報告が中心となりがちで、任意後見業務に対し、会員の皆様が現場でどのように対応しているかを知ることでできる機会がありません。そこで、実情がどのようになっているのか、任意後見に関するアンケートをおこなったところ、16件の回答をいただきました。(お忙しいところ回答をお寄せくださった会員の皆様、たいへん有難うございました。)

1. 任意後見に関する契約を結んだ年齢について

- ① ~50歳 0件
- ② 51~60歳 2件
- ③ 61~70歳 1件
- ④ 71~80歳 5件
- ⑤ 81歳~ 8件

2. 性別 男性 4名/女性 12名

3. お住まい ご自宅 7名/施設 9名

4. ご親族、ご親族との関係

- ご親族がいない 5名
- ご親族がいる 11名
 - ご親族と不仲 3名
 - 関係の良好なご親族がいる 6名
 - どちらもいえない 2名

5. 契約に至った主なきっかけ

比較的若い②③(70歳以下)については、生まれつき身体に障がいをお持ちの方や、脳出血による後遺症で麻痺のある方などでした。ご本人が50代に入る頃には、親や配偶者など身の回りの方々の側にご本人をお世話できなくなる、ということが契約のきっかけとなるようです。

より高齢の④⑤(71歳以上)では「施設入居に伴って」というケースが半数を占めました。入居にあたり身分保証や緊急連絡先が必要になって、とのことでした。

その他には、お子さんがいらっしゃるにもかかわらず「子供には頼りたくない」ということでの任意後見契約もありました。

6. ご本人とのコンタクト

基本的に1ヶ月に1度、電話や訪問でコンタクトをとるといのがほとんどでした。直接会う頻度は、1ヶ月毎~半年に一度、と様々でした。

7. かかりつけ医はいるか

- いる 13名
 - いない 3名
- (施設入居 2名/生活相談員がかかわっている 1名)

8. 現段階で、任意後見契約発効のタイミングをどのように考えているか

「これからご本人と話し合いで決める」という回答と「その時が来たら、ご本人の入居している施設長や介護担当者、医師と相談して決める」という回答が多くありました。

なかには「神経内科に通院していて、ご本人が毎月、医師に直接所見を確認している」「『配偶者がご本人の世話をできなくなったとき』と契約に明記されている」というものもありました。

そんな中で「意思疎通が困難になったということ、いつ、どう見極めたらいいのか。認知症の場合・精神疾患の場合などで所見は様々で、判断に苦慮するところである。『医師に任せればいい』というのは大間違いで、実際に誤診が相次いでいる実態を考えれば、ご本人の意思や生活を守るのは後見人等の仕事であると自覚しなければならず、それだけに慎重な対応をしていかなければならない。」(原文要約)という回答がありました。

9. 今後の懸案事項

「ご本人は遺言書を作成しているが信託銀行が管理しているので、対応をどうすればいいか」「ご夫婦ともに受任しているので、今後、後見報酬や費用が発生した際には、夫婦の資産をどのように分別すればいいのか難しそう」等、業務に関する具体的な課題がありました。

また、「契約による約定とはいえ、任意後見契約を発効すれば、後見報酬のほかに監督人の報酬も支払うことになる。ご本人の資力が少ない場合、なにやらご本人の財産を食い物にしているような罪悪感を抱いてしまう。この葛藤を抱いたまま手続きしていいのか…」(原文要約)という回答も寄せられました。

全体を通じて、任意後見に関する各種契約を結んだ後から、担当者ご本人の関係がスタートするという実情が分かりました。任意後見では(法定後見と違い)ご本人が元気なうちからご本人自身にヒアリングすることが可能です。ご自分の将来に対し明確に意思表示してくれるご本人の言葉を聞いておくことができれば、ご本人の希望が汲み取りやすくなり、その後の担当者の判断も少し楽になるでしょう。時間の経過に伴いご本人の意向が変わってくることも考えられますが、担当者、ご本人、ご親族や施設・医師など周囲の方々との間で、風通しのいい関係を深めていくことが、いざという時(例えば任意後見契約に移行するタイミングなど)の判断が誠実でたしかなものになっていくのではないのでしょうか。

「しながわ夢さん橋 2015」にブース出展

普及事業部 立山昭浩



大崎駅南口東西自由通路(夢さん橋)デッキを中心に、様々な会場で繰り広げられた手づくりの地域イベント「しながわ夢さん橋2015」。ライフサポート東京は10月12日(体育の日)に、ブースを出展しました。

当法人の出展は今年で3回目で、成年後見や相続・遺言などの相談会を中心に実施しました。特に、今年にご家族に高齢者や障がい者のいらっしゃる方々にも気軽に相談に訪れていただけるよう、そのような人向けの案内看板も設置しました。

このため、今回はご高齢で介護が必要な親御さんのことについての相談も多く、ご相談者は成年後見制度などについて真剣に説明を聞いていかれました。そのような方々にとって、これらは現在直面している深刻な問題ですが、「どこに相談したらいいか」「どんな制度があるのか」といったことがこれまでわからなかったためにとっても困っていたということで、非常に悩んでいらしたということがよくわかりました。

このようなことから、当法人の活動内容をもっと広く知ってもらふ必要性を感じたのですが、今年はそのためにも、より多くの来場者に当法人のブースに注目してもらい、当法人の活動内容や、成年後見制度について関心を持ってもらおうという趣旨で、来場者に参加してもらって認知症予防のための脳トレゲームをおこないました。

このゲームがとても好評で、通りがかった来場者から「私にもやらせてください」とたくさんの参加があり、全部で60名ほど。一時は順番待ちの人も出るほどの盛況ぶりでした。

ご高齢の方からお子さんまで幅広く参加していただいたので、そのにぎやかさゆえ通る方々も、

「ここは何をやっているブースなのだろう」と足を止め、看板やのぼり旗をしげしげと眺めていかれました。より多くの方に当法人のことが伝わったのではないかと思います。

今回ブース出展にご協力してくれた会員の皆さんは、相談会、ゲーム、パンフレット入りポケットティッシュ配布など、積極的に運営に携わってくださり、スムーズに行事を進行することができました。皆さまのご協力、大変ありがとうございました。

